

# 成田キャンパスにおける 作業療法士養成教育の 教育効果について

＝「専門性」「地域貢献性」「国際性」の視点から＝

国際医療福祉大学

成田保健医療学部 作業療法学科

河野 眞,石井清志,小野和美,五味幸寛,

田中紗和子,平野大輔,山口佳小里



## 【はじめに】

成田保健医療学部作業療法学科では、「地域社会から国際社会までの多様な文脈の中で、作業活動を柔軟に活用しながら活躍できる作業療法士の養成」を学科に特徴的な教育方針として掲げている。

この教育方針を実現するため、特徴的な科目配置や、教員による学生への働きかけを行っている。

## 【目的】

本研究の目的は、成田保健医療学部作業療法学科の教育効果を、その教育方針がどの程度学生に反映されたかという観点から明らかにすることである。

なお、本研究は1期生を卒業後まで継時的に追って、その特徴を捉えることを研究の長期計画に含むものであり、今回は単年度内の学生の認識や変化をとらえ、考察する。



# 【方法】

対象：本学科1期生42名

研究方法：アンケート調査。

入学時、前期終了時、年度末の計3回実施

調査項目：国際性、地域貢献性、専門性。

選択式と自由記述式とを混在

分析対象：入学時と年度末のデータ

分析：単純集計とテキストマイニングツールを使用

倫理的配慮：分析では個人が特定できないよう配慮した。

なお、国際医療福祉大学倫理審査委員会の承認を得た。

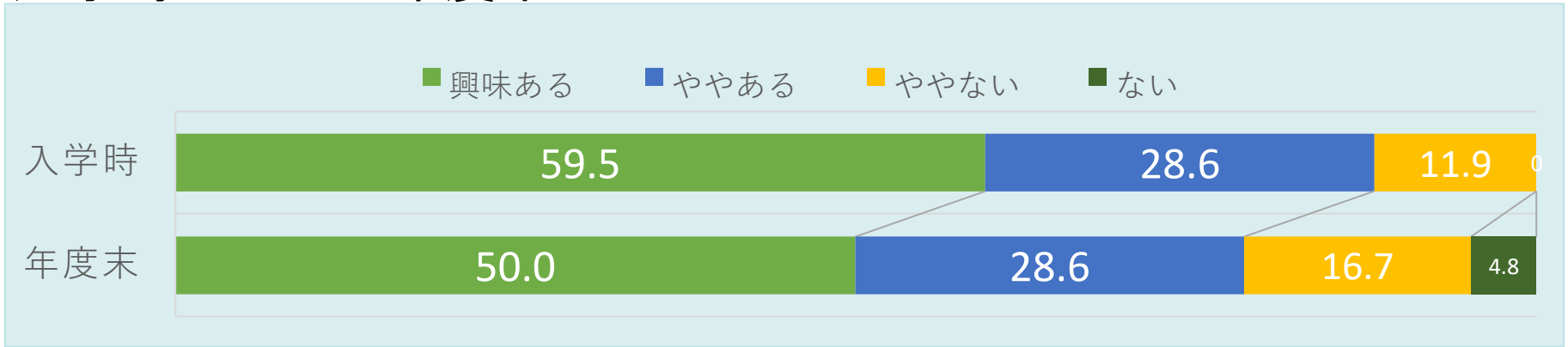
(承認番号16-10-214)



# 【結果1】 学生の興味関心

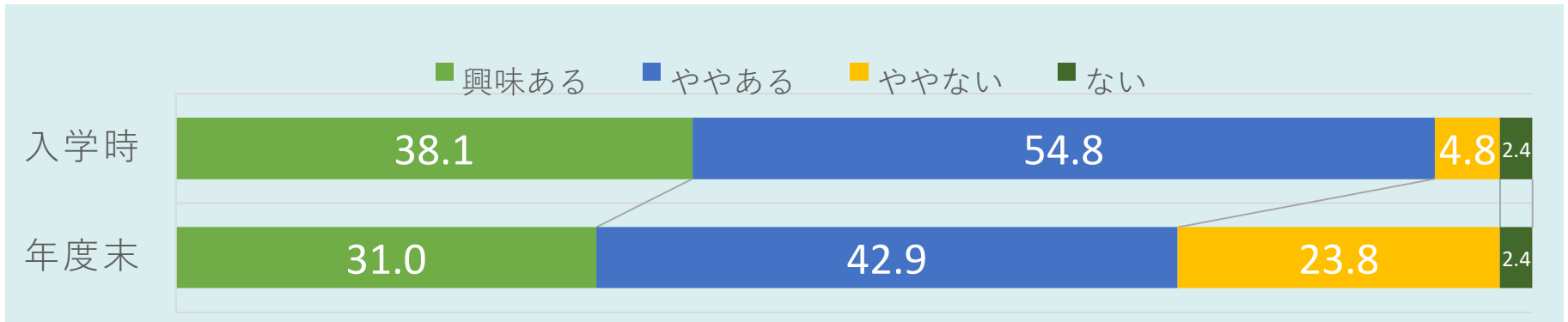
「地域で働くことに興味があるか」

入学時88.1%⇒年度末78.6%



「国際協力に興味があるか」

入学時92.9%⇒年度末73.8%

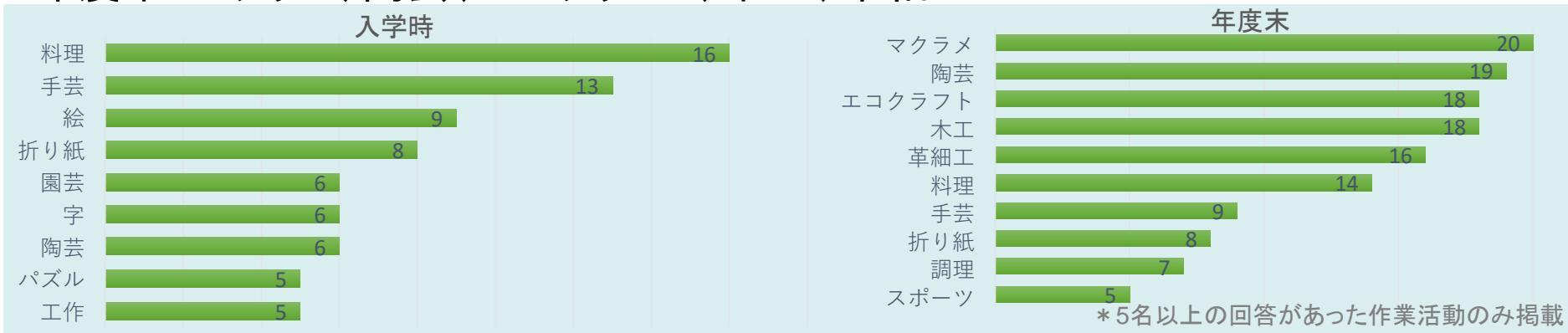


# 【結果2】 専門性

「作業療法で用いられそうな作業活動を挙げよ」

入学時：料理、手芸、絵、折り紙、園芸

年度末：マクラメ、陶芸、エコクラフト、木工、革細工



「作業・作業活動とは何か」

入学時：生活、患者さん、すべて

年度末：生活、活動、人、新たに人生や充実、生きがい等



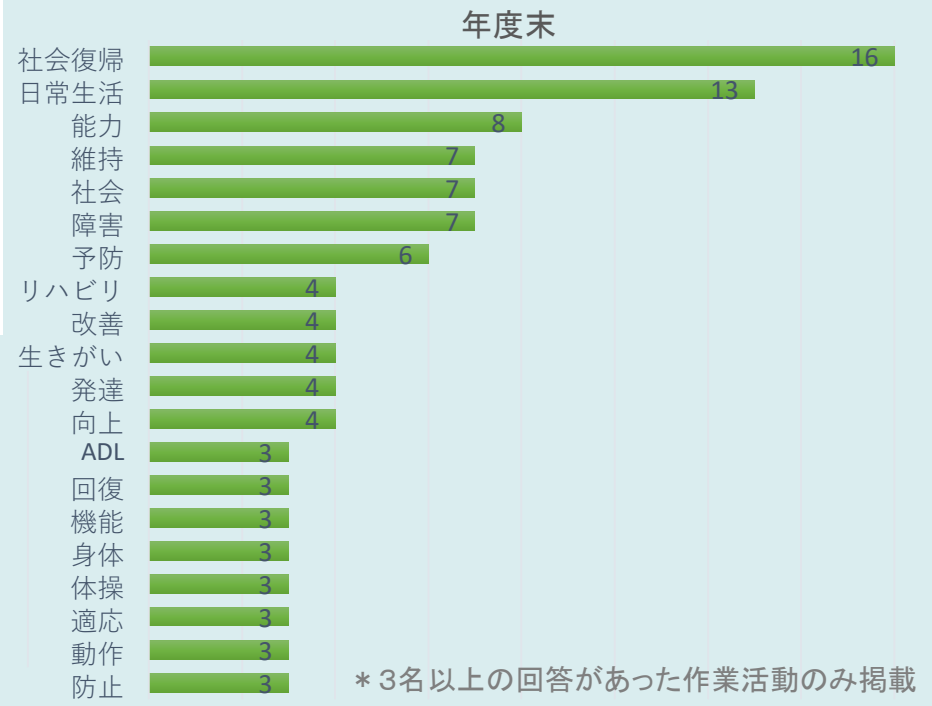
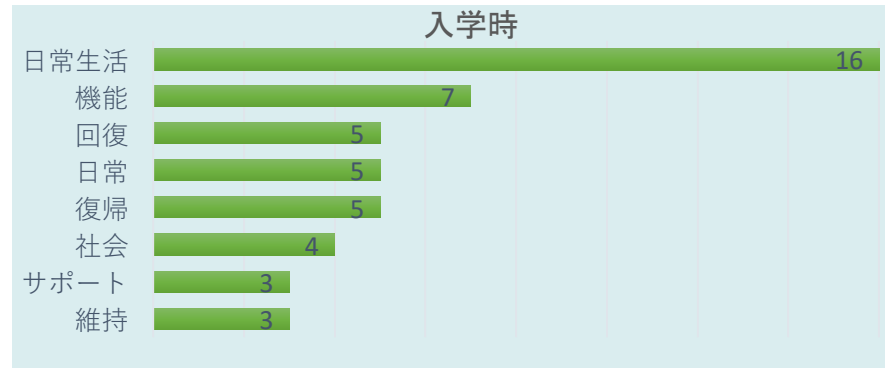
入学時	年度末
回復、作業、手助け、人間、日常生活、必要、サポート、解消、自分、社会、障害、心、身体…	作業、人生、すべて、向上、指導、治療、趣味、充実、障害、生きがい、対象者、日常生活… * 3名以下の回答があった単語

# 【結果3】 地域貢献性

「作業療法の目的は何か」

入学時：日常生活、回復、サポート

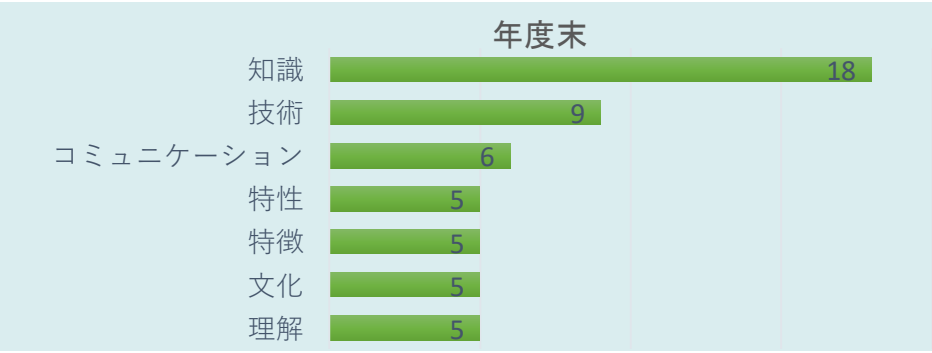
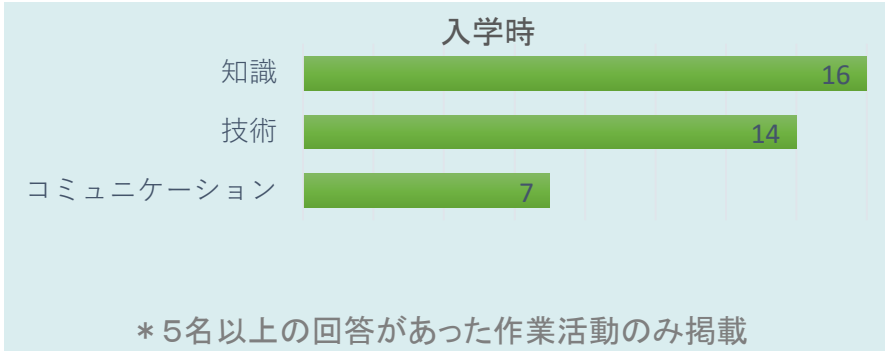
年度末：社会復帰、生きがい、予防



「地域で働くために必要な事は何か」

入学時：知識、技術、コミュニケーション力

年度末：上記＋特性や理解



# 【結果4】 国際性

「国際性と聞いて何を思い浮かべるか」

入学時: 国、文化、様々、外国、交流

年度末: 文化、国、理解、協力、海外、新たに、尊重、多様なども挙がった。



入学時	年度末
海外、他国、言語、関わる、対応できる、理解、自分、協力、人々、世界、超える、外国語、能力、グローバル社会...	交流、様々、他国、 <b>尊重</b> 、外国、 <b>多様</b> 、互い、世界、グローバル、物事、国境、超える、語学力... * 5名以下の回答があった単語

「国際性を身につけるためにどのようなことが必要か」

入学時&年度末: 文化、理解、国、知る



# 【考察】

- ・地域で働くことや国際協力への興味は入学時より年度末で減少していた。
- ・1年次には、地域作業療法や国際協力の実際に触れる機会が設けられていないことによるものだと推察できる。
- ・2年次以降、海外保健福祉事情や臨床実習を通して、リハビリテーション実践や作業療法実践現場での学びが深まるにつれ、今後さらなる変化があると思われる。
- ・専門性や地域貢献性における変化は、1年次設置科目である作業療法基礎学群授業での主体的な学びや、早期臨床見学実習において、病期や圏域を教員が繰り返し指導したためと推察できる。
- ・国際性については、1年次に国際協力等の学習機会が少ないために変化がないものとみられ、今後の学年進行に従って学習されていくものと思われる。

